

○タイトル『千葉観光課 ー5 鴨川シーワールド』

○登場人物

・田宮（20代） 千葉県の外国人向けの観光課に働く青年。受け身な性格でよく物事を頼まれる体質。だが、突飛な閃きを思い付くと意気揚々とする。

・ボブ（30代） 観光課のアドバイザーとして雇われた米国人。明快な性格で何事にも乗り気。田宮と仲良く絡む。「面白ければそれでよし！」を信条にしている。

・その他（外人達）

○あらすじ

千葉県は外国人の観光客の少なさに悩んでいた。そこで外国人向け観光を専門とする『観光課』に県は任せるが……。観光課は一番若い田宮に「鴨川シーワールドの客足を増やしてくれ」と任せる。試行錯誤するボブと田宮。ボブは「展示されてるされてる魚介類やショーを見る以外にもインパクトが欲しいね」と

言う。田宮は「スタッフにマニアックな魚貝類のコスプレをさせてお客を案内させよう」と言う。果たして、どんな味が誕生するのか？
外人ウケするののか？

【シーン 千葉県観光課のオフィス】

（田宮はデスクで仕事をしている。ボブが元気よく部屋に入ってくる）

ボブ…

（明るく）おはよう、タミヤ！今日は新しいアイデアを思いついたかい？

田宮…

（疲れた顔で）おはようございます、ボブさん。いやあ、また無茶なこと言われて…今度は鴨川シーワールドの客を増やせって。

ボブ…

（目を輝かせて）鴨川シーワールドか！いい

ねえ。水族館ってのはどこも似たようなものだから、何か目立つことをしないとね。

田宮…

（ため息をつきながら）そうなんですよ。でも、そんな簡単にアイデアなんて出ませんよ…。

ボブ…

（ひらめいたように）そうだ！タミヤ、展示されてる魚介類やショーを見る以外にもインパクトが欲しいと思わないか？

田宮…

（考え込みながら）確かに…それに、ただのイルカショーじゃ、今の外国人観光客は満足しないかもしれないですね。

ボブ…

（ワクワクしながら）例えば、スタッフが魚

のコスプレをして、お客さんを案内するってのはどうだい？

田宮…

（驚きながら）えっ？スタッフが魚のコスプレ…ですか？

ボブ…

（頷きながら）そうだ！もっとマニアックな魚介類のコスプレだ！普通の魚じゃなくて、見たこともないような変わった魚だよ！

田宮…

（少し考えてから、突然明るくなり）それ、面白いかもしれませんね！やってみましょう！

【シーン2：鴨川シーワールド内】

（田宮とボブは鴨川シーワールドに到着。スタッフたちが様々なマニアックな魚介類のコス

プレをしている。カニ、フグ、オウムガイ、
ダイオウイカ、ウミウシなど)

田宮…

(興奮気味に) すごい！これで絶対に注目を
集めますよ！

ボブ…

(満足げに) 見てみる、タミヤ。外国人観光
客が続々と集まってきてる！

(外国人観光客たちが興味津々でコスプレ
タッフたちに写真を撮ったり、話しかけたり
している)

外国人観光客…

(驚いた表情で) ワオ！このカニのコスプレ、
リアルすぎるよ！

外国人観光客…

（ウキウキして）このウミウシって、こんなにカラフルなんだ！初めて見た！

外国人観光客 ∞ ∞

（楽しそうに）ここスタッフたちは何でも知ってるね！質問したらすぐに答えてくれる！

田宮 ∞

（感心して）ボブさん、この作戦は大成功です
すね！

ボブ ∞

（誇らしげに）ほらね、「面白ければそれでよし！」だろ？

【シーン ∞ ∞ 千葉県観光課のオフィス】

（田宮とボブがオフィスに戻ってきた。田宮は疲れているが、満足そうな表情をしている）

田宮…

（椅子に座りながら）今日は疲れましたが、やりがいがありましたね。鴨川シーワールドの評判も上がったし、客足も増えました。

ボブ…

（微笑みながら）タミヤ、君のアイデアがあつてこそだよ。次はどこを攻める？

田宮…

（困ったように笑いながら）それは…また無茶なこと言われたら考えますよ。

ボブ…

（大笑いして）その時はまた一緒に考えよう！きつと面白いことができるさ！

田宮…

（微笑みながら）そうですね、ボブさんとなら、どんな無茶でも楽しくなりそうです。

ナレーション..

(しみじみと) こうして田宮とボブの奇妙な
アイディアは、鴨川シーワールドの新たな魅
力を引き出し、観光客の心を掴んだ。二人の
冒険はまだまだ続く…。

終わり